

2021年2月3日

子どもの頃は小学校の遠足で乗るほかには、あまりバスに乗る機会はありませんでした。一番お世話になったのは、ブラジルで生活しているときでした。バスの路線が大変発達していて、どこへ行くにもバスが便利でした。町の様子を知るのにも、バスが大変役立ちました。郵便局、教会、レストランやパートなどもみなバスに乗っていたときに気づきました。バスは生活に密着した乗り物であることを痛切に感じました。

一日、二日の放送月曜朝礼では、お子さんたちに次のような話をしました。



(手話で) みなさん おはよう ございます

私はバスに乗ることが好きです。最近、以前よりバスに乗ることが多くなり、改めてバスについていなあと思いました。皆さんの中には、立教小学校に通うために毎日バスに乗っている人がいるかもしれません。私も自分の住んでいる家から駅まで、雨の日などはバスを使っています。でも、毎日ではありません。小型のコミュニティバスに新しいバス停が家のそばにあるのですが、一時間に一本なので、普段はあまり乗りません。最近になってバスを利用するようになったのは、足のリハビリテーションに関係しています。

足の手術の後のリハビリテーションに通った病院までは、バスで通っていました。バス停までゆつくりと歩き、しばらく待ってバスの姿が近づいてくると「ありがたいな。」と思います。バスを降りてしばらく歩くと、リハビリテーションの病院に着きます。すべてを終えて帰るときもバスに乗ります。

バスはいいなと思うようになった理由を考えてみました。

その一つは、普通の道を走ることだと思いました。高速道路を走るバスは別ですが、普通のバスが走る道は、そこを自転車で走ったり、歩道を歩いたりできます。いつもの道を、背が高くなった人のように、見下ろしながらバスは走ります。遠くまで見通せるので、気分がよくなります。大きなトラックと並んで走ったりすると、普段は見えないトラックの運転手さんの顔が見えるのも、バスに乗っているときだけです。バスは普通の車と同じように赤信号で止まるので、ゆつくりのんびり町の中を移動します。窓の高さが道のわきに植えてある木と近いので、花の咲くころはすぐ顔の近くに花が見えるのも楽しみの一つです。

二つ目は、運転手さんにお礼を言えることです。いろいろなバスの乗り方、降り方があると思うのですが、私がよく乗るバスは、真ん中から降り、降りるときに運転手さんの横にある前のドアから降ります。バスを降りるときにはいつも「ありがとうございます。」と一言うようにしています。皆さんも、機会があったらバスの運転手さんに「ありがとうございます。」と一言うってみてください。

人は一人では生きていきません。私たちは必ず、誰かのお世話になったり、お世話してあげたりしながら、一緒に生きているのです。ですから、もつともつと感謝の言葉、お礼の言葉が私たちの周りに聞こえてもいいのではないかと思っています。

私が子どもの頃は、今よりも「ありがとう」という言葉が、生活の中でたくさん聞かれました。町には、スーパーマーケットや、コンビニエンスストアなどはありませんでした。買い物は、肉屋さん、魚屋さん、八百屋さん、果物屋さん、お菓子屋さんというように、一軒一軒のお店でした。私は小学生の頃、母とよく買い物に行きました。買い物をするたびに「ありがとう。」と聞こえます。「ありがとうございます。」という声は、あちらこちらで聞こえました。買って売ってくれてありがとう、お店にいろいろなものを並べて売ってくれてありがとう、というやり取りなのだ子ども心に気づかれました。

私はこの「ありがとう」という言葉が聞こえる心がとても温かくなります。ですから私もたくさん言うようにしています。

みなさん「ありがとう」という言葉がいっぱい学校にしましょう。感謝する心が通い合う学校を、きっと神さまは喜ばれると思います。

(手話で)おはなしをきいてくれてありがとうございます
おはなしを おわります



今はお店ごとに買い物をすることも、めっきり少なくなってきました。スーパーマーケットのレジの方と言葉を交わすことも、多くはありません。インターネットの買い物では、人と会うこともありません。このような社会だからこそお子さんが「ありがとう」の言葉をたくさん聞いて成長していくことは、とても大切なことだと思っています。